



大草小学校だより

第7号

令和5年7月6日

校長 山口 隆

子どもたちのために

本校では、3年生と4年生、5年生と6年生で複式授業といわれる授業を実施しています。今年度は、算数科や社会科などに限定しています。1つの教室で一人の指導者が、2つの学年を教えるのです。教材研究といわれる授業の準備は、2倍する必要があります。当然、指導者が子どもたちに直接指導できるのは、どちらか片方の学年になります。45分間の中で交互に直接指導するようにしています。（専門用語で「わたり」）

複式授業においても、単式授業（一つの学年のみの授業）と変わらないくらいの学習成果を出すために、日々研修を重ねています。本校職員は、先進校視察として高知市の小学校を訪問したり、長崎大学教育学部附属小学校の複式学級における授業を参観したりと、常に新しい取組や、不変的な取組についてアンテナを張っています。

このようにして職員一同、始業式から言い続けている「間違いを生かして深く学ぶ」「試行錯誤のある授業づくり」を目指しているところです。先日、このような取組の様子を北海道教育大学の宮原順寛准教授に、見ていただき、様々な気づきを話していただきました。

- ◇ 「子どもたちの学びが深まっている場面と、そのきっかけは何か」
- ◇ 「子どもたち同士で学び合っている場面はどこか」
- ◇ 「子どもが主体的に学ぼうとしているのを、教師が止めている場面はないか」
- ◇ 「子どもが間違いやつまずきから学んでいる場面はないか」
- ◇ 「子どもたちは困ったときにどのような行動をとっているか」

など、ほとんどが「子ども」を主語にした話でした。子どもたちのことを初めて見たはずの宮原先生に、いつも見ているはずの私たちの見取りが及ばないのです。

複式授業では、授業進行を子どもたちに完全に任せる（間接指導）時間が生じます。この時間を有効にし、複式授業の効果を最大限にあげるためにも、「子どもを主語にして語り合う」授業研究をますます盛んにしていきます。そして、2学期に再訪問していただいた折には、私たちも宮原先生をうならせるくらいの子どもの見取りができるようにしたいと思います。

私たち教師が他の学級の授業参観をすると、ついつい「教師の動き・指導」にばかり気を取られ、肝心の子どもたちの観察がおろそかになることがあります。我が子を中心に参観される保護者のみなさんの方が、「子どもを主語に」したエピソードは多く見つけられるのではないのでしょうか。参観後、上記のような気づきがあれば、どんどん教えてほしいと思います。



大草小学校だより

第8号

令和5年7月6日

校長 山口 隆

植物にとっては恵の雨



正門横の花壇に、新しい花を植えています。野副の橋本自治会長が、届けてくださった花（マリーゴールドとペチュニア）です。自治会の皆様、毎年本当にありがとうございます。学校横を通る方の目を楽しませてくれています。

最近はずっと雨が降るため、水やりの必要もないようですが、今日のように快晴の中で咲く花を見ると、本当に癒されます。皆さんも散歩がてら眺めてみてください。

また、がんばって手植えした苗も、すくすくと成長しています。夏休み期間中には、ますます成長するはずです。通りかかった際には、ぜひ見てほしいと思います。来週15日には、案山子づくり体験も予定されています。締切は過ぎておりますが、追加は可能ですので、ご連絡ください。



人間にとっては脅威にもなりうる雨

植物の成長には欠かせない雨ですが、量が過ぎると命を脅かすものになってしまいます。増水した川で向こう岸に渡ろうと泳いでいた中学生、海で飛び込み遊びをしていた高校生…。亡くした命は二度と帰ってきません。助かりはしたものの、あと少し救助が遅れていたら、という事例も次々に報道されています。大雨による浸水映像は本当に恐ろしく、「こんなことは初めてだ…」とインタビューで答える被害者の方がほとんどでした。橋や道路が水の力で流され、自宅が水につかるとは思わないものです。被害にあわれた方には、一日も早い復興を祈念するとともに、いつ私たちの身におきるかわからない、ということを肝に銘じておきたいと思います。子どもたちだけで川や海で遊んではいけないことになっています。保護者・地域の皆さん、見守りよろしく願いいたします。

<https://www.kasen.or.jp/mizube/tabid324.html> (水難事故についての詳細なデータ)